

## 平成23年度「近畿建設リサイクル表彰」受賞者の決定

「近畿建設リサイクル表彰」は、近畿地方において、建設リサイクルの推進を自主的、かつ積極的に取り組んでいる個人、団体、又は事業者に対し、建設副産物対策近畿地方連絡協議会がその活動を賞し、奨励することを通じ、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを充実させ、廃棄物などの循環資源が適正・有効に利用・処分される「循環型社会」の構築にむけた行動の輪を広げることを目的としています。

### <近畿建設リサイクル表彰>

近畿建設リサイクル表彰については、7機関より11件の推薦があり、審査の結果、会長賞3件、奨励賞6件が決定されました。各賞の受賞者は以下の通りです。

#### 受賞者：会長賞（3件）

- 株式会社 オージーロード（再資源化部門）  
「循環型社会に貢献する」  
…改良土、再生砕石の出荷が、累計1,000万トンを超える！…」
- 株式会社 京星（再資源化部門）  
「コンクリート用高品質再生骨材と再生骨材コンクリートの製造・販売」
- 大林道路（株）大阪支店、奥村組土木興業（株）環境開発本部、東亜道路工業（株）関西支社、（株）NIPPO 関西支店、佐野正典（近畿大学）（技術開発研究部門）  
「排水性舗装混合物の100%リサイクル技術の研究」

#### 奨励賞（6件）

##### 再資源化部門（4件）

- 株式会社 大松土建  
「産業廃棄物中間処理施設をインターネットでリアルタイムに公開する等、先進的な環境経営を実践」
- 独立行政法人都市再生機構 西日本支社 技術監理部  
「建替団地周辺小学校へリサイクル授業（リサイクルスタディ）の実施」
- 内村興産株式会社  
「建設副産物適正処理推進要綱を考慮した生産活動及び品質管理」
- 三大宝建設株式会社  
「下水溶融スラグと廃棄瓦の再生路盤材（SKR-30）」

**施工部門（2件）**

○鴻池組・春名建設 特定建設共同企業体

神戸市危機管理センター新築工事

「狭小な敷地のビル建設における積極的な3Rの取り組み」

○鹿島建設（株）関西支店 新千里北町工事事務所

「建設副産物のリサイクル率100%達成（混合廃棄物搬出ゼロ）による  
環境配慮型現場運営の推進」

各候補者の取り組み内容等は別添資料を参照して下さい。

なお、審査会は平成24年2月3日（金）に国土交通省近畿地方整備局の会議室で以下の  
審査委員により行われました。

審査委員 山田 優 委員（大阪市立大学 名誉教授：学識者委員）  
勝見 武 委員（京都大学 教授：学識者委員）  
伊勢田 敏 委員（京都府 建設交通部長：自治体代表委員）  
大塚 俊介 委員（建設副産物対策近畿地方連絡協議会 幹事長  
近畿地方整備局 企画部長）

以上

近畿建設リサイクル表彰	会 長 賞
受 賞 者	株式会社オージーロード
所 在 地	大阪府 大阪市 此花区
受 賞 テ ー マ	「循環型社会に貢献する」 …改良土、再生砕石の出荷が累計 1,000 万トンを超える！

**【取組概要】**

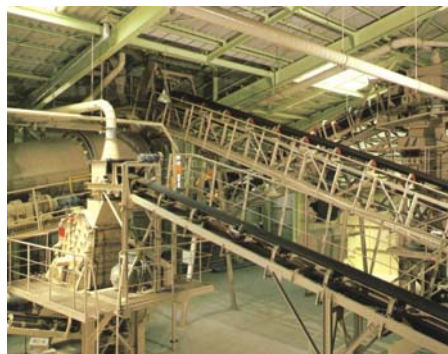
- ・昭和58年創業。逼迫する最終処分場問題の解消、山土採取による自然環境破壊問題の対策、また、工事の利便性向上を目的とし、土のリサイクル製品である「改良土」製造事業を開始。以後、28年間継続してライフライン、道路工事等で発生した掘削土のリサイクルを続けている。
- ・昭和61年に、吹田市に掘削土処理のプラントを建設。平成9年には、神戸市にプラント・事業所を設置し、関西一円で掘削土リサイクルに取り組んでいる。
- ・産業廃棄物処分業(がれき類・破碎)は、昭和59年5月より許可を受け、アスファルト舗装廃材、コンクリート廃材の処理を行っている。(神戸事業所は、平成8年12月に許可)
- ・リサイクル事業の継続の成果として、平成21年4月には、改良土、再生砕石の出荷(工事使用実績)累計が1千万トンを超えた。
- ・創業翌年の昭和59年6月からは、アスファルト舗装廃材の破碎処理とそれを原料にした再生アスファルト合材の製造も行い、「道路工事」のトータルリサイクルを行っている。

**【評価】**

- ・先進的な取り組みとして、土質改良プラントを非常に早期に設置しており、現在稼働している土質改良プラントの中では、最も古いもののひとつであり、近畿地域では最も古いものであることから、先鞭性に特に優れた取り組みである。



生産した土質改良土



プラント写真

近畿建設リサイクル表彰	会 長 賞
受 賞 者	株式会社 京星
所 在 地	大阪府 枚方市 尊延寺
受 賞 テ ー マ	コンクリート用高品質再生骨材と再生骨材コンクリートの製造・販売

**【取組概要】**

- ・コンクリート塊を破碎・粒度調整する単純な再生処理物(いわゆる再生クラッシュラン)ではなく、さらに磨鉱・比重選別処理を加えて高品質の再生品(生コン用骨材)まで加工する。
- ・一定程度の破碎・粒度調整されたコンクリート塊に対してさらに磨鉱処理を加えて骨材からモルタルを剥離し、比重選別処理により骨材とモルタルと異物を分離し、骨材を得る。
- ・高度処理技術の中では設備の規模を大きくすることが容易であり、弊社設備の生産能力は製品ベースで時間130～140tを有している。
- ・再生粗骨材(砂利)、再生細骨材(砂)ともに旧建設省の「コンクリート副産物の再利用に関する用途別暫定品質基準(案)」(1994年)の1種の製造が可能。
- ・2001年に再生骨材コンクリートでは初めて、建築基準法37条に基づく国土交通大臣認定を取得。
- ・2010年にJ I S A 5 0 2 2 「再生骨材Mを用いたコンクリート」を取得

**【評価】**

- ・全国で初めてJIS A 5022(再生骨材Mを用いたコンクリート)の認証を取得し、また『再生骨材コンクリート普及連絡協議会(ACRAC)』の設立発起人の一人として全国で普及促進に取り組んでおり、我が国における再生骨材コンクリートの普及促進に大きく寄与する優れた取り組みである。



再生粗骨材 (再生砂利)



各種製品

近畿建設リサイクル表彰	会 長 賞
受 賞 者	大林道路（株）大阪支店、奥村組土木興業（株）環境開発本部、東亜道路工業（株）関西支社、（株）NIPPO 関西支店、佐野正典（近畿大学）
所 在 地	大阪府
受 賞 テ ー マ	排水性舗装混合物の 100%リサイクル技術の研究

**【取組概要】**

- ・溶融しにくいアスファルトを含む混合廃材であっても、すべてを再び混合物用材料とする新しいリサイクル技術を確立するための研究を実施した。
- ・混合物製造小型実験機による検討の結果、再生粗骨材中にアスファルト量を1%程度以下にすれば、ふるい分け処理がしやすく、分級や粒度調整が正確に行える、再生用添加剤と古いアスファルトの混合もしやすくなる、また新規骨材用ドライヤでの加熱が可能になることが分かった。
- ・再生骨材のアスファルト量を少なくする方法としては、アスファルト量ゼロの添加材(新しい砂または粉)と加熱混合する方式と、コンクリート再生骨材の製造のために開発された磨砕機を用いてアスファルト分を分離除去する方式が採用可能なことが分かった。
- ・両方式で製造した再生粗骨材は、排水性舗装の表層、すなわちポーラスアスファルト混合物用骨材として使用可能なことを、国道 43 号線および国道 28 号線での試験施工により確認した。
- ・再生粗骨材をふるい分けた後の細粒分も、排水性舗装の基層など、種々のアスファルト混合物の材料として利用可能なことを、室内実験及び国道 28 号線での試験施工で確認した。

**【評価】**

- ・ほとんど再資源化されていない排水性舗装廃材を100%再資源化するための研究を全国的にも早い段階(平成17年度)で着手し、また成果を得ており、先鞭性に特に優れた取り組みである。



再生排水性舗装の試験施工



浸透水量調査

近畿建設リサイクル表彰	奨励賞(再資源化部門)
受賞者	株式会社 大松土建
所在地	大阪府 大阪市 西淀川区
受賞テーマ	産業廃棄物中間処理施設をインターネットでリアルタイムに公開する等、先進的な環境経営を実践

**【取組概要】**

・平成12年、弊社中間処理施設(中島リサイクルセンター)にウェブカメラを設置し、施設の様子をweb上で映像公開しており、利害関係者(工事の発注者、施工業者およびエコ砕石の購入者)は勿論、一般市民誰もがインターネットでリアルタイムに見られるようにした。

・平成12年、エコ砕石は、再生砕石としては最初のエコマーク認定を受けており、道路の路盤材や、埋戻し材などに広く利用されている。(エコマーク認定番号 05 131 008)

・平成19年、中島リサイクルセンターに小型風力発電装置を設置し、新エネルギーの利用を開始した。

・電子 manifests の利用を積極的に推し進め、利用経験のない排出事業者や収集運搬業者への電子 manifests の導入支援などのサポート活動を展開中である。

**【評価】**

・平成12年からの『インターネットによる産業廃棄物処理施設のリアルタイム動画配信』は、全国的にも相当早い段階での導入と考えられ、先鞭性に優れた取り組みである。



Web カメラ



小型風力発電装置

近畿建設リサイクル表彰	奨励賞(再資源化部門)
受賞者	独立行政法人都市再生機構 西日本支社
所在地	大阪府 大阪市 城東区
受賞テーマ	建替団地周辺小学校へリサイクル授業 (リサイクルスタディ)の実施

#### 【取組概要】

・昭和63年より団地の建替事業に伴う建設廃棄物のリサイクルに取り組んできた。(当時、住宅・都市整備公団)

・平成5年にコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊の100%リサイクルを達成。

・これまでの多くの団地建替によるリサイクルの取組みを広く世間に理解を得るため、また、社会貢献の一環として、事業実施団地周辺小学校児童への環境教育の一助となる取組みとして、リサイクル事業(呼称:リサイクルスタディ)の取組みを以下の内容で実施した。

- ①平成22年7月13日(火) 宝塚市立仁川小学校 4年生 120名
- ②平成22年10月7日(火) 奈良市立鶴舞小学校 4年生 42名
- ③平成23年1月18日(火) 吹田市立千里第二小学校 4年生 149名
- ④平成23年10月14日(金) 奈良市立鶴舞小学校 4年生 45名
- ⑤平成23年10月27日(木) 西宮市立甲子園浜小学校 3年生 140名
- ⑥平成24年1月31日(火) 吹田市立千里第二小学校 4年生 139名

#### 【評価】

・建設リサイクルに係る出前講座を継続的に実施している事例は、全国的にもほとんど見られず、建設リサイクルPR活動の先進的な取り組みである。



仁川小学校 (H22. 7. 13)



千里第二小学校 (H23. 1. 18)

近畿建設リサイクル表彰	奨励賞(再資源化部門)
受賞者	内村興産株式会社
所在地	奈良県 生駒市 北田原町
受賞テーマ	建設副産物適正処理推進要綱を考慮した生産活動及び品質管理

**【取組概要】**

- ・「奈良県における建設リサイクルの実施に関する指針」をもとに営業・生産活動、また品質管理を実施している。
- ・環境負荷を考慮し、奈良県に対して建設廃棄物の県内処理を推進、公共工事において再生品を使用することが義務付けられていなかった為、当社と奈良県土木課と廃棄物対策課とミーティングを何度も重ね、平成20年には優先順位が設けられ、優先的に県内処理を行う、また再生材を使用することが指針により定められた。
- ・生産された製品は不純物量試験、土壌汚染対策法・環境基準値に基づく試験を行っている。アスベスト検査も行い、厳しい品質管理を行っている。

**【評価】**

- ・再生粒度調整砕石では、奈良県リサイクル認定製品の第1号の認定であり、奈良県内での再生資材の利用に対する先導的な取り組みとして評価できる。



再生粒度調整砕石



再生砂



近畿建設リサイクル表彰	奨励賞（再資源化部門）
受賞者	三大宝建設株式会社
所在地	滋賀県 栗東市 御園
受賞テーマ	下水溶融スラグと廃棄瓦の再生路盤材（SKR-30）
<p><b>【取組概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性の高い下水溶融スラグに加え、処理に苦しんでいた廃瓦を混合することにより安価で良質の下層路盤材を作り上げることに成功した。</li> <li>・大学教授や県の協力を得て、優良な路盤材を完成した。</li> <li>・滋賀県よりリサイクル製品認定証が与えられ、下水管防護材や路盤材等、広く公共工事に利用されている。</li> <li>・廃瓦は従来、最終処分場にて処理されていたが、当社のがれき類中間処理場にて再生製品として生かされた。</li> <li>・当社で廃瓦をリサイクルすることで、排出業者や施工業者の皆様より非常に喜ばれている。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下水溶融スラグと廃瓦を用いた再生路盤材の製造（開発）は優れたリサイクル技術であり、同社の取り組みを契機として、県内に溶融スラグ混入二次製品の製造が広がったことも滋賀県内における普及効果の優れた取り組みであった。</li> </ul>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>再生路盤材（SKR-30）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>原料スラグ</p> </div> </div>	

近畿建設リサイクル表彰	奨励賞(施工部門)
受賞者	鴻池組・春名建設特定建設共同企業体
所在地	兵庫県 神戸市 中央区
受賞テーマ	狭小な敷地のビル建設における積極的な3Rの取り組み

**【取組概要】**

- ・梱包材が必要でないものは、あらかじめメーカーに指示し、無梱包で搬入した。
- ・搬入用パレットについて、再使用可能な物とするようメーカーに依頼した。
- ・基礎埋め戻しに流動化処理土を利用した。
- ・ゴミステーション(分別収集)を設置して廃棄物の分別を行い、混合廃棄物の減量化を図った。
- ・狭小現場のため、1m3のコンテナを利用して分別の徹底を図った。
- ・現場進捗状況により、コンテナの数量を調整した。

**【評価】**

- ・車輪等のついた移設可能なコンテナを活用し、工事の進捗状況に応じてコンテナ設置数量、設置場所を変動させながら現場分別を実施するなど、工夫をすることで狭小な敷地においてもリサイクルに努めた、他の現場にも普及すべき優れた取り組みである。



鋼台上のごみコンテナ設置状況



1階部分のごみ分別箇所

近畿建設リサイクル表彰	奨励賞(施工部門)
受賞者	鹿島建設株式会社 新千里北町工事事務所
所在地	大阪府 豊中市 新千里北町
受賞テーマ	建設副産物のリサイクル率100%達成(混合廃棄物搬出ゼロ)による環境配慮型現場運営の推進

**【取組概要】**

- ・現場において、混合廃棄物ヤード(コンテナ)を設置しない、判り易い分別表示を行う事を方針として掲げた。
- ・清掃などで発生したゴミは様々な種類のゴミが混ざった状態となるので、ふるい、磁石などを用いて細かく分別するルールとした。
- ・産廃業者の選定にあたっては、候補となった業者のリサイクル率を調査し、とくに当現場において排出量の多い項目でリサイクル率が高い業者を採用した。
- ・各職の職長の組織体である職長会に産廃分別推進委員会を発足し、定期的にパトロールを実施すると共に分別活動、啓蒙活動を主として行う事で関係者全員の意識を統一する活動を行った。

**【評価】**

- ・本工事では、単位工事あたりの混合廃棄物排出量は、0.00019t/m<sup>2</sup>であり、H20年度における近畿管内で混合廃棄物排出があった工事(636件)のうち、10番目に小さい排出量に相当し、建設リサイクルにおける優れた取り組みである。



廃棄物分別ヤード



産廃分別推進員による分別指導